



校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ⑦

令和2年7月17日（金）

「失敗や挫折は・・・」

今週の水曜日に今年度初めての定期考査が終わりました。特に高1、中1のみなさんは、初めての高校、中学校の「定期考査」を経験して、今までの中学校や小学校との違いを感じたのではないのでしょうか？

今週は多くの教科で答案も返却されました。結果はどうだったでしょうか？返却されたその結果に「よし、頑張った甲斐があった！」と手ごたえを感じた人もいれば、「あんなに頑張ったのに・・・」とショックを受けている人もいるでしょう。また、「ああ、やっぱり頑張りが足りなかった通りの結果だったな」と諦めムードの人もいるかもしれませんね。

今回の考査がうまくいった人は、結果をただ喜ぶだけではなく、うまくいった時こそ！間違った問題やわからなかった問題の原因解明をしっかりとすることが大切です。それが確かな「実力」になります。「あんなに頑張ったのに・・・」とショックを受けた人・・・心配はいりません！それだけ頑張ったことに大きな価値と意味があります！ただ、頑張りにふさわしい結果が出なかったということは、勉強のポイントがずれていたか、勉強の仕方に問題がある可能性があります。すぐに、教科担当の先生のところに行って、考査に向けて自分がどのように勉強したかを話した上で、勉強のポイントや勉強の仕方について「診断」してもらわなければなりません。その「診断」結果による先生のアドバイスをしっかり実行すれば、次回の考査では間違いなく！いい結果に繋がります。ポイントは、躊躇せずに、今すぐに！教科担当の先生の所に行くことです。頑張りが足りなかった人・・・これはもう言うまでもありませんね。今回の結果を繰り返さないためにただ頑張るのみですよね。ただ、なぜ頑張れなかったのかについては、日ごろの生活をはじめ、しっかり「分析」して「改善」を図らなければいけません！

「定期考査」は、将来の進路目標実現のための大事な「プロセス」です。（以前、私が勤務していた学校で、高校3年間の全ての！定期考査問題をストックしていて、大学入試前にはその全てを！もう一度解いて入試に臨み、現役で東京大学に合格した人がいました。）だからこそ、定期考査の結

果に一喜一憂するのではなく、結果をしっかり「分析」し、次に向けて「改善」を図ることが重要なのです。「反省」だけしても、「分析」→「改善」がなければ同じことの繰り返しになってしまいます。

私たちが生きていく上では、自分が思った通りにうまくいくこともあれば、うまくいかないこともあります。うまくいかないことが「失敗」や「挫折」だとすれば、その「失敗」や「挫折」を後々まで悔やむような文字通りの「失敗」「挫折」にしてしまうのか、その「失敗」「挫折」を次の糧としてステップアップのきっかけとするかは、「失敗」「挫折」と感じた、そこからの私たちの行動次第で180度変わります！

「失敗」や「挫折」は、そう感じた時にそれが「失敗」「挫折」だと決まるのではないのだと思います。その後の私たちが、その「失敗」や「挫折」の原因を「分析」し、「改善」を図り、それを「実行」することによって、一見「失敗」や「挫折」に見えたことも、実は次の「成功」のための、なくてはならない大切な「経験」というものに変化するのではないのでしょうか。だからこそ、「失敗」や「挫折」と感じたそこからこそが、本当に大切なのです！

昔から言われる「失敗は成功のもと」とはこのことを言っているのだと思います。また、「若い時にはたくさん『失敗』したほうがいい。」という人もいます。(もちろん、取り返しのつかないような「失敗」は論外ですが、)それは、「失敗」や「挫折」と感じた後、「分析」→「改善」し、次の「成功」のための、なくてはならない大切な「経験」をせよ！ということを行っているのではないのでしょうか。

色々なことの価値や意味は、私たち一人一人の考え方や行動によって決まるのだと思います。

今回の1学期期末考査の結果を、みなさん一人一人のここからの行動によって、真に価値あるものにしてほしいと思います。

校長 深瀬 信也